



PILOT社（現：株式会社パイロットコーポレーション）の発展に大きく貢献した「伝説の営業マン」、守屋勇治会長。転居以来、スクスクと生長してきた「白樺」を手に。



敷地内では四季折々の草花や果実が実をつける。とくにキウイは近所の方も毎年お裾分けを楽しみにされているとか。また、庭園には池もあり、金魚たちが悠々と泳ぐ。いずれも訪れた人の心を和ませてくれる光景だ。



快く取材に応じてくれた守屋京子社長



探訪 house on the hill

ゲストハウスの建つ場所は、狭山丘陵を下った西武球場（現・西武ドーム）の初代球場長の邸宅跡地だという。来訪者を迎える玄関には、階段に沿って紅白の南天の鉢が並んでいる。南天は「ナンテン」から「難転」に通じることから、日本では縁起木として親しまれている。短くない階段に沿って紅白の南天が並ぶ様は圧巻だ。秋から冬へと変わろうとする11月初旬、すすきの穂が天を突き快晴の下、敷地内にはキウイや柿の木が実をつけ、温室内には草花の鉢植えが並ぶ。

ゲストハウスの隣接地は、同社の守屋勇治会長、守屋京子社長の自宅になっている。今年、卒寿を迎えた勇治氏の趣味は「発明」で、このことが、同社の主力商品『モーリアンヒートパック』開発の背景になったというエピソードがある。また一方で、勇治氏には、万年筆で知られるPILOT社（現・株式会社パイロットコーポレーション）の発展に大きく貢献した「伝説の営業マン」という一面もある。同本社事務所の応接室では、昭和26年の平和条約締結後、巨大工場建設の命を受け赴任したブラジルで、ポルトガル語を習得するために通った夜学の学生証や、初航海時のパスポート、赤道通過許可証などを見ることが出来る。

今から16年前の平成10年、勇治氏の生命に係る重度の喘息による転地療法とモーリアンヒートパック工場立ち上げのために入間に転居してきた同社。このとき勇治・京子両氏を含め、総勢3名であった。その後、火も電気も使わず水だけで食事を温める発熱剤『モーリアンヒートパック』により再びの繁栄を築いた同社は、地元を支えを得て、今、人間から世界へとあたたかい食事を届けようとしている。



（写真上から）ショーケース内にはPILOT時代の記念品が並ぶ。守屋勇治氏の自慢のコレクションという千支の万年筆セット／ブラジル赴任時代の住民票や初航海時のパスポート、学生証、赤道通過許可証など、思い出の品の数々が額に収められている。